

令和6年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第3回 就労支援専門部会 要点記録

日 時 令和7年2月6日(木)14:00~16:00
場 所 文京シビックセンター5階 区民会議室A
出席者 志村 健一 協議会副会長・瀬川 聖美 部会長・藤枝 洋介 委員・阿部 優美 委員
山口 裕紀子委員・小野寺 肇 委員・小泉 洋平 委員・野村 育代 委員・平井 芙美 委員
長澤 みこ 委員・大野 聡士 委員・天野 亨 委員・鶴田 秀昭 委員・望月 大輔 区委員
小谷野 恵美 区委員
(ゲスト委員) 松下 功一 委員
欠席者 市川 礼雄副部会長・池田 直矢 委員・阿部 光実 委員・中瀬 茂由 委員

<会議次第>

1 開会

2 議事

- (1) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて
「しょうがいのある方のいろいろな働き方」
【資料第1号】
- (2) 令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会 全体会について
【資料第2号】
- (3) 就労選択支援事業について
【資料第3号】

3 閉会

<配布資料>

- ・第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて……………【資料第1号】
- ・令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会全体会のご案内……………【資料第2号】
- ・就労選択支援事業について……………【資料第3号】

<参考資料>

- ・文京区障害者地域自立支援協議会 就労支援専門部会 資料(案)
- ・第20回共生のための文京地域支援フォーラム『しょうがいのある方のいろいろな働き方』アンケート集計
- ・就労選択支援について 厚生労働省社会・援護局保健福祉部障害福祉課

【開会】

- ・事務局より、当日資料の確認。
- ・瀬川部会長より、当日欠席の委員の確認。

【議事】

(1) 第20回共生のための文京地域支援フォーラムについて

【資料第1号】及び【参考資料1】

- ・資料及びチラシについて、事務局より説明。
- ・企業パネル展で使用したパネルや、各事業所紹介のスライドショーについて、今後の活用の仕方。
(各委員より)
- ・区内企業パネル展の場所にある、スライドショーについては、モニターにて投影したのか？
- ・できれば、大きなスクリーンで投影した方が良かった。モニターが小さいと、見づらくなってしまう。大きい方が分かりやすい。
- ・編集の工夫ができたかもしれない。各事業所をアピールする為にも大きな方が良かった。
- ➡モニターを使用した。貸し出し用のモニターは小さいもののみであった。地下2階のマルチビジョンでも投影していた。モニターの大きさ、編集の仕方については、今後の参考にしていく。

(共生のための文京地域支援フォーラム実行委員会より)

- ・ご協力ありがとうございました。就労支援専門部会の協力がなければできなかった。平日の開催で心配したが、多くの方の来場があった。アンケートも好評であった。企画の時よりも成果があったと思われる。
- ・「良い」ということだけではなく、「ご意見もあった」。講演会の第1部にて、会社の方の当事者に向けての発言で、気になられた方からのご意見であった。より一層、言葉遣いにも注意をしていかなければならないと思った。

(講演の担当者より)

- ・普段の関係性から出た言葉と思われるが、色々な想いを持っている方もいる為、気を付けていかなければならないと思った。
- ・第2部の講演について、ご本人の特性も考えて色々と準備してきたが、最終的にはご本人の自信につながり、良い機会となった。保護者や会社関係者からも同様に「良い機会をありがとうございます」と感謝の言葉が出ていた。
- ・第1部、第2部とも、講演を通じて、ご本人の成長が見られた。

(各委員より)

- ・アンケート集計に年齢層が入っていなかったが、アンケート自体に載せていなかったのか？
- ・年齢を載せていると、集計時に役立つ。また、どのようなSNSを使っているか等も分かると思われる。
- ➡載せていなかった。次回は載せていきたい。

(2) 令和6年度文京区障害者地域自立支援協議会 全体会について

【資料第2号】及び【参考資料1】

- ・資料について、事務局より説明。

(各委員より)

- ・全体会の当日は、他の部会のことも知ることもできる。当事者の話もある。共生フォーラムを経て「当事者の方が育った」という内容も入れ込むと良いか。当事者の意見を大切にしながら考えていくと良い。選択支援事業も同様である。
- ・共生フォーラムについて、アンケートの満足度等も入れると良い。アピールポイントになる。

(3) 就労選択支援事業について

【資料第3号】及び【参考資料：厚生労働省より】

- ・資料について、事務局より説明(P.8までを説明)。

(各委員より)

- ・目的としては、ご本人がより良い選択ができるようになる制度だと思う。現在、事業所の体制が整っていない要因は何か？
- ➡具体的な情報や流れが出て来ていないことから、事業所が一步踏み出せないのではないかと。地域によっては、手を挙げているところもある。地域差がある。実施主体について、厚生労働省からの資料P.9を参考に。地域によっては、「B型事業所中心で就労選択支援事業を考えていく」となっている。
- ・アセスメントパターンについて、通所型が多いと思われる。就労選択支援員を作る為に研修を受けないとできないとなっている。文京区に何人いるか？
- ・東京都のレベルなのか、順番待ちしなくてはならない状況があるのか？
- ➡養成研修は、まだ行っていない状況。4月以降の順次周知していく(参考資料P.6、P.10を参照)。令和7年6月頃から、80名規模の研修を予定している。
- ・国が窓口になると、狭き門になってしまう可能性がある。
- ・学校では、学生が現場実習を行う時に、インターンシップ保険に加入して実施する。保険については、「教育課程内で何かあった時に適用」となる為、授業のない「夏休み時期はどうするか？」という話が教員の中で出ている。学校にて就労選択支援事業を行う場合は、教育課程とリンクして行わなければ厳しい。教育課程を年度の途中で変えることはできない為、就労選択支援事業については、R7.10月から実施となっているが、学校としては、R8.4からになるのではないかと。
- ・特別支援学校に入学していない学生、福祉サービスを利用している学生については、どのようにアセスメントに参加させるかは課題になる。その場合、中学の支援学級に確認すると、数字が見えてくるのではないかと。
- ・「就労のチャンスがある」と判断された場合、多種多様な働き方があると考え、超短時間雇用についても開拓していく必要がある。HWに超短時間雇用を確認しても「ほとんどない」との話を聞く。
- ・選択支援事業にて、利用期間が1か月であると、非常に厳しいと思われる。精神の方で、日中活動先として考える方、就労先として考えると2パターンある。長期入院などで地域移行を目的とした方については、ご本人に来所してもらってアセスメントする場合、1か月間の判断では、仕事のことより、健康状態の把握で終わってしまうのではないかと。精神の方がB型利用をすることも狭き門になってしまうのではないかと。
- ➡参考資料P.13を参照。

- ・利用者が受けると考えた時、「他の場所を選びたい」、「同じ B 型でも違う場所を利用したい」、「適正に評価を行って欲しい」との目的になると思われるが、現状の事業所と一緒に（併用）に、利用できるのか？辞めなくては行けないのか？

➡参考資料 P. 18, P. 19 を参照。R7. 10 からは、新規利用者のみが対象。

【資料第3号】「次年度に向けて」について事務局より説明

（各委員より）

- ・就労移行支援、就労継続 A 型、B 型の支給決定に係る所管課は、身体及び知的障害者は障害福祉課で、精神障害者については予防対策課になる。一般的な流れとしては、ご本人からの申請、聴き取り（区分認定は不要）、サービス等利用計画案の作成、月2回の会議にかけて決定、受給者証を送付、利用事業所との契約を行い利用開始となる。会議のタイミングと申請書を出すタイミングにもよるが、理論上は2週間から1か月くらいで支給決定が可能。あとはサービス等利用計画案がどれくらいで提出されるのかといった外的な要因によってくる。
- ・就労選択支援事業が始まると、就労選択支援事業としての支給決定、どのサービスを利用するかを支給決定と、2回の支給決定になる。
- ・保健サービスセンターは支給決定している場所ではない。精神の方や難病の方の調査を行っている。支給決定については、予防対策課が対応するが、流れとしては身体の方と知的の方と一緒にある。
- ・精神の方は、保健士の聴き取りであり、身体の方と知的の方の聴き取りは、それぞれの支援係で対応している。
- ・移行は新規利用ではなく、利用が2年を超える方が対象になる。障害受容も進んでおり、就労準備も整っている方が多い、企業とのマッチングのみの問題である。そのタイミングで、アセスメントを受けると、足止めになってしまうのではないかと不安である。
- ・選択支援事業について、意見交換をしてきている。先駆的に動いていることはありがたいことである。主にB型が中心になってくるとも意識する。全てが悪い訳ではないが、株式の事業所も広がっている。工賃を目的にしている事業所、違う役割（生活リズム等）目的にしている事業所と、地域の中での生活を考えることが二極化している。利用者のことを考えると、よりその方に合った事業所を考えることでの制度となる。
- ・ハンドブックにもプラスし、修正していく必要がある。WGには計画相談の方にも入ってもらい。利用者不在にならないようにしてもらいたい。当事者の方を考えながらWGを進めて欲しい。
- ・WGでの内容等、全体会で報告することになる。外部の報告することで、周囲も同調してくれる。

【閉会】

- ・事務局より。次年度に向けて検討していく。
- ・今年度は、現在の部会委員について、任期の関係で今回が最後になる。引き続きお願いできればと考える。